

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0972600308		
法人名	医療法人北斗会		
事業所名	グループホーム高根沢		
所在地	栃木県塩谷郡高根沢町大字石末1005番地8 (電話) 028-680-2231		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成19年10月9日	評価確定日	平成19年10月26日

【情報提供票より】 (平成19年9月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人(うち兼務2人), 非常勤2人, 常勤換算6.46人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代—実費 ・おむつ代—実費 ・水道光熱費— 19,425円 ・日用消耗品費— 4,500円 ・レクリエーション代—実費 ・電気代—1機器につき1日52円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 350 円	おやつ 150 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年9月27日現在)

利用者人数	7 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 86.7 歳	最低 82 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高根沢中央病院 奈良歯科病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム高根沢は、平成14年に医療法人北斗会が開設した平屋建ての木造の建物で、隣接する敷地には法人の介護老人保健施設がある。周囲は田園に囲まれ四季折々の風情が漂い、和みのある家庭的ホームである。近隣には民族資料館があり、散策コースの場所としている。共用空間は木目を基調としており、畳部屋には和紙の衝立が置かれ、穏やかな雰囲気が漂っている。管理者、職員の連携を深め、ケアの質を高めながら、入居者一人ひとりの思いや意向について関心を寄せ、また注意を払い、入居者の視点に立った取り組み、支援がされているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や重要性について職員、管理者が理解しており、食事における栄養への配慮やケアプランのモニタリング等について話し合いを重ね、具体的に改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は全職員で話し合いながら記入し、管理者が確認した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	管理者が議事内容を設定し進行している。町の健康福祉課高齢対策係、入居者、家族、民生委員等が参加して、ホームの活動内容やボランティアの受け入れ、ケアプラン等のホームの取り組みを説明し、質の向上を目指した話し合いをしている。会議の内容は、カンファレンスの際に職員に伝達している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時は職員が近況報告をしている。管理者が対応し、要望等を伺っている。電話でも報告したり、夜間でも夜勤者が対応できるようにしている。金銭管理は、立替払いにしており、月1回家族の来訪時に報告している。ホーム便りは個人情報大切に、写真の掲載等について必ず了解いただいた上で発行している。要望や苦情等の受付について、重要事項説明書にホームの窓口を記載し、不在の場合は担当者以外の職員や隣接の介護老人保健施設の支援相談員が対応することを明記している。苦情が発生した場合は、対応したことで終わりにするのではなく発生要因を探り、課題検討と質の向上につなげるように努めている。玄関に意見箱を設置している。家族会はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域柄人目を避けるという部分もあるとのこと、散歩や買い物時に挨拶を交わす程度の交流に留まっているが、町の行事に参加したり、イベントを通じて地元の子どもや老人会等の方々との交流が図れるように心掛けている。自治会には加入していない。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域でその人らしく生活することを支えるケアを目指している。入居者に色紙に「自分らしく高根沢」と書いていただき、玄関等に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で管理者と職員は理念を意識しながら話し合い、理念にもとづいた日常の支援（言葉かけ、態度、記録等）ができるよう取り組んでいる。また、併設の老人保健施設とも理念の共有化を図り意識の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域柄人目を避けるという部分もあるとのこと、散歩や買い物時に挨拶を交わす程度の交流に留まっているが、町の行事に参加したり、イベントを通じて地元の子どもや老人会等の方々との交流が図れるように心掛けている。自治会には加入していない。	○	夏祭りや地域との行事交流をきっかけにして自治会に加入するなどして、地域の情報収集をしながら、ホームと地域の人々が支えあうような双方向の関係づくりを図るなど、更に積極的に取り組んでいくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性について職員、管理者が理解しており、食事における栄養への配慮やケアプランのモニタリング等について話し合いを重ね、具体的に改善している。今回の自己評価は全職員で話し合いながら記入し、管理者が確認した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が議事内容を設定し進行している。町の健康福祉課高齢対策係、入居者、家族、民生委員等が参加して、ホームの活動内容やボランティアの受け入れ、ケアプラン等のホームの取り組みを説明し、質の向上を目指した話し合いをしている。会議の内容は、カンファレンスの際に職員に伝達している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加のほか、ホームの実情や取り組みを折りに触れて説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時は職員が近況報告をしている。主に土曜日、日曜日に来訪者が集中するが、管理者が対応し、要望等を伺っている。電話でも報告したり、夜間でも夜勤者が対応できるようにしている。金銭管理は、立替払いにしており、月1回家族の来訪時に報告している。ホーム便りはプライバシーマーク対応で、個人情報大切に、写真の掲載等について必ず了解いただいた上で発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や苦情等の受付について、重要事項説明書にホームの窓口を記載し、不在の場合は担当者以外の職員や隣接の介護老人保健施設の支援相談員が対応することを明記している。苦情が発生した場合は、対応したことで終わりにするのではなく発生要因を探り、課題検討と質の向上につなげるように努めている。玄関に意見箱を設置している。家族会はない。	○	運営推進会議には家族も参加しているが、より意見や不満、苦情を伝えてもらいやすくするために、家族会など、家族同士の集まりの場で意見を出せるような取り組みにも期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員新規採用に際しては、経験年数により日数を調整しているが、おおむね2日間程度のホームでの実習を行い、ボランティアとして入居者と馴染みの関係づくりをするなどの配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、内部研修を一覧表にしている。研修参加後は、カンファレンス時に報告を行っている。また、サービス向上委員会があり、隣接のシルバーホームと合同で入職年数による段階的な研修を行っている。年数回カウンセラーを迎えて、自分を振り返る機会を設けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており、会議や研修等に参加している。関連施設の管理者が協会の理事をしており、事業者同士連携しながら質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談があった場合は、入居前に家族、本人とホームに来ていただき、他の入居者との交流を図るようにしている。馴染みの関係づくりが難しい場合は、少しずつ関係を築きながら場の雰囲気になじめるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の過去の経験を尊重し、料理、裁縫、昔からの風習などを職員が教えていただいたりして入居者の思いを共感し、支え合う関係を築いている。昼食準備も職員と入居者が協力している様子が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用し、日々の生活の中での職員の気づきも活かしながら、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、ゆとりを持って入居者本位の支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回カンファレンスの時間を設け、職員の気づきも踏まえて検討している。家族の要望や疑問等の意見も採り入れ、入居者主体の暮らしのための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを3ヶ月に1回行っている。状態に変化があった時などは、その都度家族と連絡をとり合い、現状に即した計画を作成している。職員同士が情報を共有し、ケアの実践を計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定を受けている。医療機関との連携体制が取れている。また必要に応じて隣接の介護老人保健施設との連携を密にして助言をもらっている。入居者のニーズに合わせて地域包括支援センターとの協議を進めていくことを検討している。	○	運営推進会議への地域包括センターの職員の参加を検討するなどして、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係等を構築しながら、ホームの支援の充実を図っていくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院への受診や緊急時の対応は職員が行っている。入居者の希望する医療機関への受診は家族の協力のもと受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の意向に沿うよう、家族の意見も伺いながら、かかりつけ医との連携を図り、ホームとして最大限提供できるケアを検討している。当ホームは看護師のいないホームではあるが、隣接の老人保健施設の看護師の助言を仰ぎ、家族の気持ちの変化や、入居者の思いに注意を払い、支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等の個人情報保護の徹底について職員が研修を受け秘密保持に努めている。また、サービス向上委員会があり、入居者の希望が表出できる場を設け、ゆとりを持った対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課活動についてはスケジュールを定めず、入居者の希望や入居者が納得した上で自分のペースで行動出来るよう支援している。個別の買い物や墓参り等の支援もしている。訪問調査時にも入居者と職員と一緒に買い物に行く様子が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意志や気持ちを大切にしながら、出来ることを考慮して、食事の盛り付け、配膳、下膳等、時間をかけて行っている。職員は必要に応じて介助や声かけなどをしながら入居者と一緒に同じ物を食べていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の生活歴、生活習慣を家族に伺い、入居者に合わせた入浴の支援をしている。入浴は30分を目安にしているが、短い入浴の方、長い入浴の方と個人差もある。毎日入浴者が1名、週2～3日入浴者もいる。また入浴時間を設定していないことで、衣類の着脱、洗髪、体洗い等入居者のペースで行えるよう配慮しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仕事で得た特技や、得意なことを職員と一緒にに行っている。趣味を活かした絵画、家族への手紙等の宛名書き、手紙等、各居室にて行っている。家族との連絡に電話を利用している入居者もあり、要望に応じて対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換や五感刺激の機会として、食材の買い出しに職員と出掛けたり、町営の運動場や施設周辺の散策をしたりしている。入居者の外出希望にその都度対応出来るよう支援している。日課プログラムは作成していない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、門扉の鍵と玄関の鍵をかけていない。入居者の動線を職員が見守り、外出したいような仕草のときは職員が声かけをして付き添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を実施している。隣接の介護老人保健施設と共同で防災委員会を設置し、毎月10日にホーム内の防火自主点検を行っている。	○	災害はいつ、どの時間に起きるのか不明であり、昼夜を通じて様々な時間を想定し、具体的な避難誘導策を決めておくことを期待したい。地域住民の協力を得ながら非常食料、備品等の準備などの検討にも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接の介護老人保健施設の栄養士管理の下で一日の摂取量を1,500kcal、30品目の食材を目安にし、記録しながら必要なカロリー摂取の支援をしている。水分摂取については、お茶の時間を設けたり、入居者の希望によってその都度お茶を出すなどして支援している。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は木目を中心とした和風のたたずまいで、リビングの吹き抜けに日差し避けとして入居者が縫った暖簾を使用している。リビングのソファや中央の和室など自由にくつろげるよう居場所がつけられている。中庭には季節感漂わせる木々が置かれており、またスタッフルームを常備開放し、一人になりたい時の居場所づくりの工夫もされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	約10畳の居室に、入居者が愛用していた家具等（ベット、布団、ダンス）を持ち込み、個性的な居室づくりがされている。気温や湿度の調整も温度計を用いて職員の支援のもとでなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。